

# 音楽表現力向上への取り組み

－合唱コンクールと実技発表会－

広島大学附属東雲中学校 音楽科 松前良昌

## 1. はじめに

本校音楽科では、音楽表現力向上への取り組みとして、校内合唱コンクールと実技発表会を開催している。校内合唱コンクールは、生徒会の行事として運営も生徒が行っている。「行事（特別活動）」としてのねらいと、「音楽科（教科教育）」としてのねらいがあるが、新指導要領にもきちんと位置づけられており、両立するものと考えている。また、音楽実技発表会は、「表現及び鑑賞の幅広い活動」として、個々の表現力を育むのに重要な授業内容である。

今年度、コロナ禍の状況下において合唱コンクールの開催は困難と判断し、やむなく中止した。また、音楽授業においては、歌唱の授業は最小限にとどめている。そのため、今年度予定していた合唱の研究は全くできる状況になく、音楽科としては壊滅的なダメージを受けている。しかしながら、その状況下において、実技発表会を何とか開催した。そこで、その開催方法が少しでも参考になればと思い、その実践を提案することにした。

## 2. 通常時の校内合唱コンクール

本校では、例年10月に校内合唱コンクールを開催している。9月から実施する校内合唱コンクールの練習では、3年生は授業で取り組む前に自ら放課後等にパート練習をして、授業では全体練習の時間を確保するなど、意欲的かつ計画的・効率的に取り組んでいる。また、縦割り交流では、2・3年生が1年生を指導している。これらのことは下級生にとってよい模範となっている。授業では、指導に対しての反応もよく、自ら考えて表現しようとしたり、自分で詩の意味や曲の構成について調べたりする生徒もいる。本校では、個に応じた音域、バランスなどを考慮するとともに、より豊かな音の重なりをめざして第2学年から混声四部合唱に取り組んでいる。その結果、合唱にふさわしい発声が次第に身についており、豊かな響きをもった質の高い演奏となってきている。1年生の時は教師の細かい指示を待っている状況であったが、3年生になってからはリーダーを中心に自分たちで合唱表現の工夫を考えるようになってきており、教師が助言をしなくとも自分たちで表現を工夫する基礎は身につけていると考えている。

このことについては、本校紀要および実践紀要（動画）等で提案しているので、そちらを参照されたい。

YouTube 広島大学附属東雲中学校音楽科授業（H30年度2学年）①②

YouTube 広島大学附属東雲中学校音楽科授業（R1年度3学年）①②③④

表 1 通常の実技発表会の実施内容

学年	回	音楽会名称	内 容
1年生	1	歌の発表会	歌：課題曲から選択(共通教材)
	2	歌と笛の発表会	歌orリコーダー：課題曲から選択
	3	歌と笛の発表会	歌orリコーダー：自由曲(各自が準備)
2年生	4	歌の発表会	歌：課題曲選択(共通教材)
	5	歌の発表会	歌：課題曲選択(唱歌4曲から)全員無伴奏
	6	総合実技発表会	歌or楽器：自由曲(各自が準備)
3年生	7	歌の発表会	歌：課題曲選択(共通教材)
	8	最後の歌の発表会	歌：課題曲選択(共通教材・日本民謡・外国曲など)全員無伴奏
	9	卒業記念演奏会	歌or楽器：自由曲

※通常は5回と8回は残響の長い特別教室，他は音楽教室で開催するが，今年度は全て体育館で開催

### 3. 3年間を見据えた実技発表会

音楽科では，生徒個々の表現・技能の向上を目指し，各学期に実技発表会を開催している。今年度の実施内容は表1のとおりである。

1年生の最初は，比較的歌いやすい課題曲としている。学年が上がるにつれて難易度は高くなる。2年生からは，無伴奏に挑戦させる。音程を一定に保つのは，結構難しいが，歌唱・合唱の授業の中で，次第にまわりの音を聴き，そのハーモニーをつかんでいるように思われる。また，各学年の年度末においては課題曲を指定しない。自分の持ち味を出せる作品を選び，自ら主体的に表現させるためである。そして，2学年からは演奏形態も自分で選択させ，3年生の集大成へつなげていく。また，伴奏の方法なども考えさせることで，綿密な準備の重要性にも気づかせたいと考えている。

人の前で発表は，私たち大人も含め，メンタル面が影響することは少なくない。中学生においても同様で，1年生のはじめは緊張や恥ずかしさでうまく歌えない生徒が多い。しかし，一人でも堂々と歌う生徒がいると「歌うのが恥ずかしい」ではなく「歌わないのが恥ずかしい」という雰囲気が変わっていく。そして，次第にその人数は増えていき，3年生最後の「卒業記念演奏会」では，殆どの生徒が自らの努力の成果を発揮して巣立っていく。

これらは，筆者が実体験の中で感じたことであるが，毎回書かせている図1のような相互・自己評価

**歌の発表会 相互・自己評価**

●年●組 番 名前

※自分および一緒に演奏した人の両名欄は記入しなくてよい。

相互評価			自己評価		
番号	名前	評価	番号	名前	評価
1	●●●●●	5・4・3・2・1	31	●●●●●	5・4・3・2・1
2	●●●●●	5・4・3・2・1	32	●●●●●	5・4・3・2・1
3	●●●●●	5・4・3・2・1	33	●●●●●	5・4・3・2・1
4	●	5・4・3・2・1	34	●	5・4・3・2・1
5	●	5・4・3・2・1	35	●	5・4・3・2・1
6	●	5・4・3・2・1	36	●	5・4・3・2・1
7	●	5・4・3・2・1	37	●	5・4・3・2・1
8	●	5・4・3・2・1	38	●	5・4・3・2・1
9	●	5・4・3・2・1	39	●	5・4・3・2・1
10	●	5・4・3・2・1	40	●	5・4・3・2・1
11	●	5・4・3・2・1	41	●	5・4・3・2・1
12	●	5・4・3・2・1	42	●	5・4・3・2・1
13	●	5・4・3・2・1	43	●	5・4・3・2・1
14	●	5・4・3・2・1	44	●	5・4・3・2・1
15	●	5・4・3・2・1	45	●	5・4・3・2・1
16	●	5・4・3・2・1	46	●	5・4・3・2・1
17	●	5・4・3・2・1	47	●	5・4・3・2・1
18	●	5・4・3・2・1	48	●	5・4・3・2・1
19	●	5・4・3・2・1	49	●	5・4・3・2・1
20	●	5・4・3・2・1	50	●	5・4・3・2・1

  

自己評価	
評価基準	評価
♪ 歌壇に適した姿勢で，豊かな音量で意欲をもって歌おうとしているか。	5・4・3・2・1
♪ 発声や発法に加え，音程・リズム・強弱など技術的にも高いものであるか。	5・4・3・2・1
♪ 歌の表現など音楽的に高いものであるか。	5・4・3・2・1
♪ 聴衆（観衆）に訴えるものがあるか。（気持ちが高まっているか）	5・4・3・2・1
♪ 最後まであきらめず，恥ずかしがらずに演奏しようとしているか。	5・4・3・2・1
♪ 他の人が歌う時，きちんと聴いているか。（鑑賞態度）	5・4・3・2・1
♪ 演奏を終えて	
♪ 全体を通して	

ベストアーティスト賞  
(1人または1グループ)
総合自己評価  
(10点満点)
点

図 1 実技発表会の相互・自己評価 (例)

には、それを裏付けるような感想が多くある。

1年生「〇〇さんは堂々と前を見て歌っていた。声の大きさがすごかった。」

1年生「緊張で足が震えそうだった。次はがんばって歌う。」

2年生「1年生の時より、発声がよくなった人が多いように思う。」

3年生「とても高レベルだった。自分の声を生かしている感じだった。」

3年生「曲の雰囲気を体全体で表現している感じがした。」

他にも、自分もうまく歌いたいと思っている感想が多くあった。これが相乗効果をもたらしていると考えられる。個々が人前で音楽表現をするという行為は、合唱コンクールにもよい影響をもたらしていると考えている。また、相互・自己評価には、ベストアーティストを選ぶ欄を設けている。これは、クラスから一人選んで投票する。そして生徒票が5票・10票・15票以上を掲示して発表する。これも、励みになって、次回につながっていると思われる。

このように音楽科では、1年間で3回の実技発表会ではなく、3年間で9回と捉えて、中学校で音楽的表現力を育てていきたいと考え、実践研究を続けている。

#### 4. 実技発表会における新型コロナウイルス感染症対策

今年度、コロナ禍の状況下において、実技発表会を開催したが、先に述べたとおり、その開催方法の変更を余儀なくされた。

**3年生へ** 音楽科

## 最後の歌の発表会について

次のとおり、歌の発表会（テスト）を実施します。がんばってください。

日時 令和2年10月16日（金） 音楽の授業

会場 体育館

曲目 次の中から1曲選ぶ。  
 独唱・斉唱 全てア・カペラ（無伴奏）

夕焼け小焼	《1番、日本語》	（プリント）
ふるさと	《1番、日本語》	（プリント）
ソーラン節	《1番、日本語》	（プリント）
Silent Night	《1番、英語》	（プリント）
We are the World	《サビ2回繰り返す、英語》	（プリント）

方法 独唱：1人ずつ 一人1回

発表順

- ・順番は①申込用紙、②出席番号順のどちらの予定です。後日お知らせします。

その他

- ・聴衆へ向けて、しっかり表現しているかどうかを重視します。
- ・曲の感じにあった歌い方をしているかどうかを重視します。
- ・必ずしも暗譜ではありませんが、暗譜した方が曲の感じが出しやすいと思います。
- ・Keyは自分で決めます。始めに必ずキーボードで音を取って演奏してください。  
Keyが合っているかどうか判断します（2点満点）
- ・英語の曲を歌う場合、その発音によって1～3点で評価します。
- ・当日欠席すると、後日一人で演奏することになります。  
その場合、バスケット部・卓球部（放課後・体育館）または吹奏楽部（放課後・音楽室）の前で歌うことCDです。
- ・得点は、基本点20点満点＋音取り0～2点＋暗譜0～1点＋英語：1～3点です。

評価規準

- ・歌唱に適した姿勢で、豊かな音量で意欲をもって歌おうとしているか。
- ・作品に適した発音に加え、音程・リズム・強弱など技術的にも高いものであるか。
- ・歌の表情など音楽的に質の高いものであるか。
- ・聴衆（観衆）に訴えるものがあるか。（気持ちもっているか）
- ・最後まであきらめず、恥ずかしがらずに演奏しようとしているか。
- ・他の人が歌う時、きちんと聴いているか。（鑑賞態度）

図2 実技発表会の要項（例）

**最後の歌の発表会 in体育館 10/16 3-2**

3番前になったらこのエリアに待機（椅子利用は任意）

待機3→発表→帰り3の間は、マスクをはずしてOK

この間に、均等に間隔を開け、椅子に着席する

白線 先生 白線

自分の席では相互自己評価プリントを記入しなさい  
翌日の下校時刻までに音楽室前のカゴに提出

- ・前後左右の間隔は約2mです。均等に間隔を開け、椅子に着席しなさい。
- ・自分の席で待っているときは、給水して構いません。
- ・発表の時は、マスクをはずしてください。
- ・自分の3つ前から移動を開始し、発表後も1つずつ移動して戻りなさい。
- ・待機場所に椅子がありますが、利用は自由です。
- ・発表中、送風機は使用しませんが、途中で換気します。

当日の持参物…教科書・ノート・資料集・筆記用具、「最後の歌の発表会」楽譜  
マスクケース（昼食時のためOK）、水筒

図3 実技発表会の体育館内の配置図（例）

図2は実技発表会の要項であるが、例年と大きく異なるのは実施会場が体育館になったことである。本校の音楽教室は狭いため、時間割担当者に体育授業等と調整していただき、体育館が利用できるようになった。

そのため、図3の実技発表会の体育館内配置図を各クラスごとに作成して生徒に配付した。新型コロナウイルス感染症対策のため、ソーシャルディスタンスを保ち、ドアや窓を開けて換気をしている。また、ステージと客席は約10m離れたうえで、ステージの生徒だけがマスクをはずして歌っている。進行はローテーションで順番に移動して発表し、授業前後はアルコール消毒をした。

なお、事前の歌唱授業の際は、体育館フロア全面を利用して、横2m間隔、縦は7m間隔で広がり、こまめに換気をしながら練習した。

## 5. 実技発表会の動画について

動画は令和2年7月と10月に開催した各学年の発表会の様子である。7月は表1の1・4・7回目、10月は2・5・8回目にあたる。動画は、表2のとおり、1年生1回目から順番に並べている。

YouTube 広島大学附属東雲中学校音楽科授業 (R2年度)

表2 配信した動画の概要 (今年度の音楽実技発表会の実施内容)

広島大学附属東雲中学校音楽科授業「実技発表会～中学校3年間を通じて～2020」

学年	回	音楽会名称	内容
1年生	1	歌の発表会	2020年7月実施。一斉休校中、オンラインで本校校歌を発信することができた。しかしながら、それ以外の曲は全く学習していない。そのため、やむなく校歌を課題曲とした。事前練習(授業)は、体育館でソーシャルディスタンスを保ちながら、授業1時間分だけ実施することができた。
	2	歌と笛の発表会	2020年10月実施。共通教材の「夏の思い出」と「赤とんぼ」を学習した。そして、課題曲として自分でどちらかを選択させた。
2年生	4	歌の発表会	2020年7月実施。一斉休校のためオンラインで共通教材「浜辺の歌」を発信し、課題曲とした。
	5	歌の発表会	2020年10月実施。唱歌「朧月夜」「茶摘」「紅葉」「雪」から選択させた。全員無伴奏とし、最初にキーボードで音を取らせてから発表させた。
3年生	7	歌の発表会	2020年7月実施。一斉休校のためオンラインで共通教材「花」を発信し、課題曲とした。
	8	最後の歌の発表会	2020年10月実施。共通教材・唱歌・民謡・外国曲など様々なジャンルの課題曲から、自分で曲を選択させた。配付した楽譜には、あえて強弱記号などを記載せず、自ら表現を工夫して発表させた。
	9	卒業記念演奏会	参考までに昨年度2020年1月に実施した写真を掲載している。

これにより中学校3年間で、計8回の実技発表会を経験することになる。そして、最後に「卒業記念演奏会」を経験する。この演奏会は義務教育9年間の集大成と位置づけていて、歌だけでなく、様々な楽器演奏も可能とし、選曲も自由にしている。例年は音楽教室で開催し、保護者も参観している。ただし、今年度については体育館で実施した。なお、動画中のスライドは、昨年度2020年1月に音楽教室で実施した時の様子である。

これら一連の発表会を通して、生徒自ら楽曲について解釈し、表現する力を育むことが出来ればと考えている。さらには、これらの実践が、歌唱表現においてグローバル時代をきりひらくための資質・能力を育成することにつながるものと考えている。

#### 【参考文献】

- ・小林寅喆「音楽の授業の正しい感染対策」, 教育音楽 [中学・高校版] 10月号, 音楽之友社, pp.42-47, 2020.
- ・臼井 学ほか「校内合唱コンクールをどうするか」, 教育音楽 [中学・高校版] 11月号, 音楽之友社, pp.22-39, 2020.
- ・国立教育政策研究所, 「国研ライブラリー 資質・能力 [理論編]」, 東洋館出版社, 2016.
- ・中央教育審議会 「次期学習指導要領に向けたこれまでの審議のまとめ(素案)のポイント」 参考資料, 2016.
- ・中央教育審議会 「幼稚園, 小学校, 中学校, 高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について (答申)」, 2016.
- ・文部科学省 「学習指導要領」, 2017.
- ・文部科学省 「中学校学習指導要領解説」, 2017.
- ・文部科学省 「学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル」, 2020.
- ・文部科学省 「小学校, 中学校, 高等学校及び特別支援学校において合唱等を行う場面での新型コロナウイルス感染症対策の徹底について」, 2020.
- ・全日本合唱連盟 「合唱活動における新型コロナウイルス感染症拡大防止のガイドライン (第2版)」, 2020.